

こうじ
工事の
げんば
現場より

亭榭保存修理事業

今はこんな様子だよ。



5月5週目

この工事では檜皮葺屋根の葺替を主として行いますが、作業を安全・円滑に行うために屋根まで近づく必要があり、「足場」を含む「素屋根」が設けられました。素屋根は建物全体を覆う仮設の建築物で、工事中の建物を風雨から守るだけでなく、作業場から出た粉塵等を外に出さない役割もあります。建物全体が覆われてしまい姿は隠れてしまっていますが、橋は通行できるようにしています。素屋根の中では保存のための大事な作業を進めておりますので、ご理解ご協力をお願いいたします。



▲足元は川の中。水の中に土台を設置しました。▲雨を防ぐための屋根を取り付けています。

足場から見た屋根の様子。▶
劣化の度合いが良く分かります。檜皮は劣化摩耗し、表面に苔が繁茂しています。瓦棟の隙間からは雑草が生え、瓦自体も割れや欠損、亀裂が目につきます。



職人 file 01 【 鴛 】



素屋根は仮設の建築物で、工事中の建物を覆い、中で行われる安全・円滑な作業をサポートし、最後は全て撤収し跡形も残らない「縁の下の力持ち」です。仮設の建築物ですが頑丈さと安全性は折り紙付き、また三溪園では庭も文化財で守るべき存在なので、樹木や池、川床も傷めないよう細心の注意を払い配慮して設置します。昔ながらの素屋根は丸太を組立て骨組みを作りますが、現在は単管パイプを組立てて作るのが一般的です。素屋根建設に携わる職人を「鴛」といい、安全に配慮しながら飄々と高所作業をこなす姿が見事です。